

科目名称：	会計学総論	
担当者名：	西田 敬志	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
この授業では決算書の作り方（簿記）についてはほとんど触れません。社会人になった時に必要となる会社のお金に関する知識を得ることをテーマとしており、出来上がった決算書の仕組みについて学ぶことで、決算書が読めるようになり、使えるようになることを目的としています。 企業の経理や金融・証券関係の仕事に就く方はもちろんのこと、自営業や会社の役員を目指す方にも重要な内容となります。		
授業の達成目標・到達目標		
①達成目標 ・貸借対照表や損益計算書などの決算書の基礎的な「読み方」の習得 ・貸借対照表や損益計算書などの決算書の基礎的な「使い方」を習得		
②到達目標 ・決算書で企業分析をできるようになること		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	60	30		10	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 税理士 *税理士事務所	《経験年数1》 8年8か月 *19年3か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
決算書で企業分析できるようになること	決算書を見て、その会社にアドバイスできる	決算書を見ると、業種や特性がわかる	決算書をアドバースを聞きながら見ると、業種や特性がわかる	決算書を見ても、何もわからない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 会計学の基本	興味のある企業の決算書を見ておく	20分
第2回 決算書の「読み方」	ミニテスト(決算書について)を解く	20分
第3回 損益計算書の「読み方」	ミニテスト(損益計算書について)を解く	20分
第4回 貸借対照表の「読み方」	ミニテスト(貸借対照表について)を解く	20分
第5回 キャッシュフロー計算書の「読み方」	ミニテスト(キャッシュフローについて)を解く	20分
第6回 財務3表の関係性 ①	ミニテスト(財務3表の関連性)を解く	20分
第7回 財務3表の関係性 ②	ミニテスト(財務3表の関連性)を解く	20分
第8回 決算書で企業分析(分析・収益性)	ミニテスト(分析・収益性について)を解く	20分
第9回 決算書で企業分析(収益性)	ミニテスト(収益性について)を解く	20分
第10回 決算書で企業分析(安全性)	ミニテスト(安全性について)を解く	20分
第11回 決算書で企業分析(成長性)	ミニテスト(成長性について)を解く	20分
第12回 決算書で企業分析(事例)	ミニテスト(事例について)を解く	20分
第13回 企業分析まとめ(授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)①	ディスカッションテーマについて調べておく	20分
第14回 企業分析まとめ(授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)②	ディスカッションテーマについて調べておく	20分
第15回 成長する企業の決算書 まとめ	1～14回の内容を復習しておく	20分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト30%
ディスカッション10%

課題に対してのフィードバック

授業内の小テストは評価し返却する。

教科書・参考書

レジュメを配付する